

## Three column osteotomy (PSO, VCR) のいろは ～ technical guide & pitfall ～

滋賀医科大学整形外科

もり かんじ  
森 幹士

近年の脊椎外科領域で、最も注目を集めている分野のひとつが成人脊柱変形である。高齢化社会を迎え、患者数は今後も増加するものと考えられる。脊柱グローバルアライメントに注意が払われるようになった今、脊椎外科医は骨盤を含めた矢状面バランスの重要性を認識している。脊柱変形の矯正には、椎弓根スクリューによる固定と後方からの椎体間固定術 (PLIF、TLIF) で対応可能な症例から、PSO (pedicle subtraction osteotomy) や p-VCR (posterior vertebral column resection) と言った three column osteotomy を必要とする症例まで様々である。側方経路腰椎椎体間固定術 (LIF) の登場により、より低侵襲に脊柱変形矯正が可能となる症例が増加しているが、腰椎側方へのアプローチの際に問題となる血管の anomaly や後腹膜腔の癒着・癒着、Grade II 度以上のすべりなどのために、LIF の適応外となるような症例も存在する。PSO や p-VCR は、優れた矯正力を持つ後方からの脊椎骨切り術の代表格であり、我々が変形矯正の目標のひとつとしている各症例の pelvic incidence に応じた腰椎前弯獲得のために、脊椎外科医としては是非とも習得しておきたい手術手技である。本セミナーでは、PSO や p-VCR の「いろは」(適応と基本的な手技) や pitfall について、演者の経験も交えつつ解りやすく解説したいと考えています。